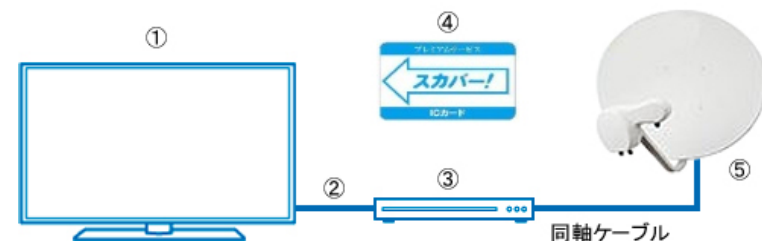
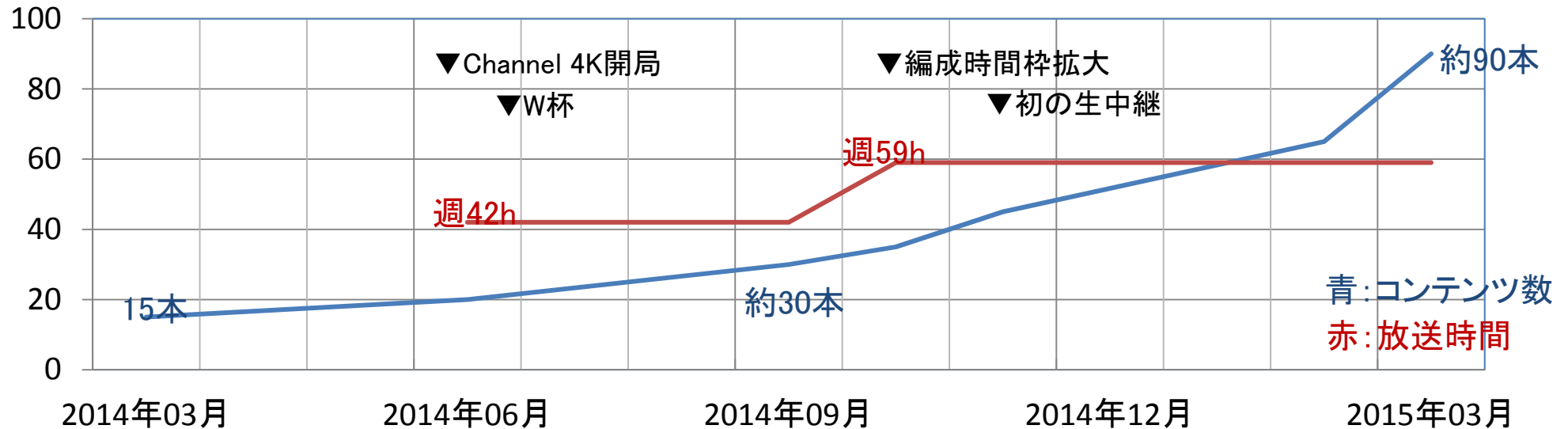


Channel4Kの概要①

- チャンネル(試験放送サービス)ブランド
 - Channel 4K(ちゃんねる・よんけい)
- 放送開始:2014年6月2日(月)13:00
- 視聴可能なメディア
 - 東経124/128度CSデジタル放送
 - ◆ チャンネル番号:502
 - ケーブルテレビ、IPTVで同時再放送
 - ◆ 2015年3月現在、ケーブルテレビ、IPTVは一般視聴者向けの放送でなく、パブリックビューイングのみ
- 番組編成
 - 放送開始時は、1日6時間が基本(13~19時)
 - 10月1日から放送時間拡大
 - 平日 :12~19時
 - 土日祝:10~22時
- 試験放送のため、受信設備があれば無料(要登録)で視聴可能
- 視聴方法(衛星直接受信の場合に必要な機器)
 - ① 4K放送に対応したテレビ
 - ② ハイスピードHDMIケーブル(カテゴリ2)
 - ③ 対応受信機(内蔵テレビの場合は不要)
 - ④ スカパー! ICカード
 - ⑤ 124/128度CSデジタル放送対応アンテナ



Channel4Kの概要②



- 6月2日の開局時以降、NexTVフォーラム会員社の放送局、制作会社が制作した4K検証用コンテンツ（音楽ライブ、自然・紀行、スポーツ番組等）を中心に、4Kならではの高画質で魅力ある番組を放送
- 2014 FIFA World Cupブラジル大会の期間中、FIFA、JC(NHK、民放連)、電通の協力により、日本戦や決勝戦を含む4試合を放送し、パブリックビューイングを実施（その後、放送試合数を拡充＝NHK/FIFAが制作した8Kの試合を4Kダウンコンバートにより放送）
- フォーラム会員社、非会員社から、検証事業終了後の番組や新作番組の提供を受け、段階的に編成を充実
- 2014年10月より編成時間を拡大（平日12時～19時、土日祝10時～22時）
- 10月に全国の放送局・制作会社等に対し、あらたに検証用コンテンツを募集し、38件（47本）を選定。11月～15年3月にかけて、試験放送を通じて“検証”を実施

“試験放送”の主旨に則り、①いっそうの高画質化・高機能化の追求、②より魅力的な4K・8Kコンテンツ開発支援、③理解促進や受信機器の普及への貢献、などを重点に、当面は試験放送を継続

2015年	2016年	2017年	2018年
△衛星SN終了 △ CS124/128 4K実用放送開始	△リオ五輪 BS 試験放送開始		△平昌冬季五輪 △サッカーW杯
<div style="border-top: 1px dashed blue; width: 50%; margin: 0 auto;"></div> 実用放送開始			
技術仕様 0.9版 → 1.0版 			
△春 △夏 △秋 △12月			

- 2015年春(0.9版) BS: 放送完結サービスについて作成
- 2015年夏 BS/CS110: CSと放送通信連携サービスの要件を反映
- 2015年秋 BS/CS110: 次世代CAS等の要件を反映
 - 夏までに利用周波数帯域や事業者数などが明確化
 - 次世代CAS等の方針が確定し、関連するARIB標準規格の改定案作成が完了
- 2015年12月(1.0版) BS/CS110: 策定完了
 - 次世代CASの運用主体や仕様等が明確化

1.0版は一般公開予定

BS/CS110 4K・8K放送 技術仕様の特徴（検討中）

伝送方式	高度広帯域衛星伝送方式 (BS放送、東経110度CS放送)
主なサービス	超高精細度(4K・8K)テレビジョン放送 最大22.2chのサラウンド音声、高音質(ロスレス)音声 マルチメディアサービス(放送通信連携を含む) マルチ編成、マルチビュー、EPG、字幕 など
伝送容量	BSの例: 約100Mbps (8K×1chまたは4K×3chの伝送が可能)
映像フォーマット	解像度:4K、8K フレーム周波数:59.94Hz 表色系:BT.2020、YCbCr 4:2:0 画素ビット数:10bit を採用
圧縮符号化	映像 HEVC H.265(4K:30~40Mbps、8K:80~100Mbps) 音声 MPEG4-AAC、MPEG4-ALS を採用
マルチメディア	記述言語に汎用性の高いHTML5 を採用
多重化	通信との親和性の良いMMT・TLV を採用
限定受信	セキュリティを強化した次世代CAS(D-CAS) を採用